

第19回 全日本自動車整備技能競技大会

全整備振興会から53チームが参加。
同友の共栄自動車商会
澤口選手の茨城チームが見事優勝!!

10月26日 (土) 東京ビッグサイト



優勝の栄誉に輝いた茨城県自動車整備振興会
(株)共栄自動車商会 澤口選手 (中)

(社)日本自動車整備振興会連合会が主催し、10月26日(土)東京ビッグサイトに「第19回 全日本自動車整備技能競技大会」が開催された。昭和52年に第1回大会が開催、2年に一度、自動車整備事業の第一線で活躍している自動車整備士の技能について適正な評価を行い、整備技術の更なるレベルアップを目指す目的で開催されている。今回は全国各県の整備振興会より53チーム、106名の選手が参加し、日頃より培った整備技術を披露、競いあった。

競技は、各県の子選・選考会を経て選ばれたメンバー1チーム2名で行われ、今大会ではロータス同友企業のみから10名が選抜された。

競技の形態は、実車競技800点、基礎作業競技100点、アドバイザー競技100点の3つの形態、合計1000点満点で実施。合計得点の高いチームを上位とする形式で行われた。

実車競技では、トヨタ ヴィッツを競技車両とし、1年定期点検整備をベースとした日常点検を含む点検整備で、エンジン関係で4箇所、ボ

ディ関係で4箇所の故障設定にて行われた。実車競技はチームのふたりが協力して競技。その後、選手の1名が基礎作業競技である単体部品の基本的な測定に基づく診断作業を行い、もう1名がロールプレイング形式で適切な接客対応が評価されるアドバイザー競技を行った。



今回は全台ヴィッツで競技

競技の中心は800点が割り当てられる実車競技で、今回はジャッキアップを伴う点検は整備済みとした条件で60分間の競技。定期点検整備記録簿は、日整連推奨の自家用自動車等の「1年定期点検用点検整備記録簿」を使用し、PCで車両のサービス・データ、修理書を確認しながら、确实、そして効率的な整備がなされているかを総合的に評価される形で進められた。また基礎作業競技では、10分間で単体部品をテスター

等を用いながら、測定結果による診断等について審査され、アドバイザー競技も10分間でお客への説明・応対等アドバイザーとしての確かな対応ができているかが審査された。

開会式では、競技説明と選手宣誓があり、全53チームをAブロックとBブロックにわけ、ブロックごとに競技が行われた。Bブロックのチームは、隔離された選手控室にて出番を待つという状況で、まずはAブロックのチームの競技が行われた。

周囲を応援団など多くの観客が見守る中で競技が行われたが、普段とは違う緊張感が選手達を覆いつくすような雰囲気の中で心落ち着けながら整備作業を進めていく、といった感じであった。普段であればきっと難なくこなせる作業も手元が震えるなどして、調整がうまくできないといったシーンも多々見受けられ、「これぞ全国大会」といった緊張感が見る者にもビシビシと伝わってきた。

Aブロックの競技終了後、続いてBブロックの競技が行われ、13時には競技は終了。14時30分から表彰式が行われ、成績発表が行われた。今大会の平均点は、685.8点。前回

大会の平均点が808.6点であったことから、今回の出題問題の難しさが判る。そして第8位から順に発表。

第6位には、807点を獲得した岩手県自動車整備振興会が入賞。岩手県チームの選手、岩井川氏は、ロータス同友である岩手県支部所属 有限会社阿部自動車のメカニック。前回大会に続いての出場で今回見事に入賞。

そして、優勝は得点897点を獲得、ロータス同友の株式会社共栄自動車商会のメカニック、澤口氏が選手である、茨城県自動車整備振興会が栄誉に輝いた。今大会の平均点から見てもその強さは一目瞭然だ。表彰式で茨城県チームが読み上げられた際、澤口選手は、まったく信じられない、といった驚きの表情のまま、壇上へ上がり、表彰が進むにつれ、徐々に実感されてきたのか、嬉しさの表情が見て取れた。パートナーである吉田選手と共に、記念の賞状と盾を手にとり、とてもすがすがしい笑顔を見せてくれた。



茨城県自動車整備振興会 (株)共栄自動車商会 澤口選手

1年定期点検整備をベースにした点検整備技術の正確性が評価される実車競技はもちろんのことながら、単体部品の測定・診断を行う基礎作業競技、そして接客対応をみるアドバイザーとしての審査を行うアドバイザー競技で競われたのだが、今回

優勝した茨城県チーム 澤口選手はロータスサービスアドバイザーの認定者。こうした部分でも整備はもちろんの事、お客様への信頼感を高める事ができるサービスアドバイザーとしても、ロータスのレベルの高さを客観的に感じる事ができる。

整備に関する競技を行う事で、日々の業務または研修などで培った整備全般に係わるスキルが客観的に評価され、全国でのポジションを感じ取る事ができる機会は技術レベルを高めていく為にも非常に有効だと

思われる。また評価されることで、自社の、ひいてはロータスメンバーのスキルの高さもアピール次第で、更なる信頼の獲得にも寄与するのではないだろうか。



神奈川県自動車整備振興会
(株)プラザーモータース 渡邊選手 (左)と宮坂選手 (右)



埼玉県自動車整備振興会 細井自動車(株) 田中選手



埼玉県自動車整備振興会 細井自動車(株) 深井選手



鳥取県自動車整備振興会 山陰車輛整備(株) 宮倉選手



島根県自動車整備振興会
(有)オートボデー・ケイ 安部選手



岩手県自動車整備振興会 (有)阿部自動車 岩井川選手



長野県自動車整備振興会
ケイエス自動車(株) 竹内選手 (左)と丸山選手 (右)

第19回 全日本自動車整備技能競技大会 インタビュー

「“普段通り”心を込めて作業した」 見事、優勝に輝いた 株式会社共栄自動車商会 澤口選手と、小林社長に聴く

10月26日に開催された第19回全日本自動車整備技能競技大会で、素晴らしい整備技術力を発揮し、見事、優勝に輝いた茨城県代表の株式会社共栄自動車商会の澤口選手と同社の小林社長に大会後、インタビューを行った。その喜びの声を届けたい。(以下、敬称略)

まずは、優勝おめでとうございます。率直な感想は？



澤口 奈央選手

(澤口) 表彰式の際、8位から4位で呼ばれませんでしたので、「これはないな」と思っていたんです。競技を終えた感触からそう思い込んでいたものですから、1位で呼ばれた際も、自分たちの事とは聞こえず、パートナーから、「おっ」と声を掛けられ、「えっ」という感じで席から立ち上がりました。表彰台に上るまで、「マジすか?」と3回くらい言っていました(笑)



確かに表彰台に向かわれる際はとても驚いた表情をされていましたね。

(澤口) そんな状態でしたから、大会当日は、本当に実感が湧きませんでした。大会後、様々な方達から「おめでとう」といった電話やメールなどを通じて、やっと実感したというのが本当のところなんです。

県での予選時はどんな感じだったんでしょうか？



振興会の役員も務める小林社長

(小林) 茨城県は5ブロックに分かれているんですが、自動車整備技能競技大会にはブロックの持ち回りで、選手を選出しているんです。今回は我々が所属する県西ブロックがその順番だったんです。今までは、その



当番のブロック内で指名のような形で選手を選んでいたんですが、今回は県で初めて二級整備士試験相当の筆記試験を行い、上位の得点を獲得したチームが代表とする、という形で行いました。それが澤口とパートナーの(株)三和トヨペットの吉田選手だったんです。

選手に選ばれてから、全国大会に向けた準備はいかがだったのでしょうか？

(澤口) 試験当日に選出が決まり、そのまま全国大会に向けた強化トレーニングに入りました。強化トレーニングは土浦にある教育センターで計10回、そしてパートナーと自主練習、その他、栃木県の予選大会へ視察に行きました。

栃木県は、全国大会でも上位入賞の常連ですね。

(澤口) そうです。県の予選会も自動車学校の協力を得て、全国大会と同じように実車競技を行い、選手を選出されています。揃いのTシャツをみんなで着られて応援も力が入っている、といった感じでした。このように本当に勝ち上がった人たちと全国では競うのかと思うと心配になりました。



澤口選手と小林社長

全国大会前に、全国レベルを体感されたという事ですね。

(澤口) はい。その他にもロータスの第9回サービスエンジニア研修会の実技部門に参加したのですが、その際、神奈川県代表の方がいらして、前回準優勝をとった先輩の感想や様子を色々と話されていました。栃木県の予選会含め、レベルというか温度感を感じとれていたと思います。

練習などの時間を確保するのも大変だったのでは？

(小林) 澤口が気持ちよく練習へ参加できるよう、社内の環境作りと言いますか、「大変だ、大変だ」って言うなよ!と社員には話をしていました(笑) 実際、みんなしっかりと協力してくれていたと思います。

全国大会当日の感想はどうでしたか？

(澤口) 緊張感が非常にありました。「緊張するぞ」とは聞いてはいましたがもう全然。ビックリするくらいに視野が狭くなりましたね。競技が終わってから「こうすれば良かった…」とたくさん思い出しているような感じでした。

(小林) 茨城県チームは、Bブロックと後半組で、Aブロックの競技時間中ずっと黙って待っていなければならないため、緊張の上に更に緊張するという状況だったと思います。これはかなりのハンディキャップになったのではないのでしょうか。

確かに、入賞チーム、8位~2位まですべてAブロックからの選出でしたね。

(小林) 逆に言うと、そうした状況の中で優勝したというのは、その集中力といえますか、素晴らしいものがあると思います。

競技の難しいポイントなどは？

(澤口) 競技では、点検手順を正しく行い、故障箇所を見つけ、修理する、という流れなのですが、先ほど言ったように、とても緊張している中で行うため、点検手順を省いてしまったりして、点数を落としているケースが多いのでは。例えば、ヒューズなども目視で「切れている」と判っていても、競技では、ちゃんとテスターで電気の流れをチェックしないと「切れている」と判断してはいけない、といった「基本に忠実」かどうかを見られているんです。

その他にもテクニックなどはありますか？

(澤口) コーチから常々言われていたのですが、「勝手に進めるな」というのがあります。競技では12ヶ月点検項目がメインになるのですが、その他問診で聞いた箇所も点検対象になります。自分たちで見当をつけた点検・修理箇所を審査員に都度伝えます。もし的外れであれば、審

査員は「必要ない」といったコメントをされるので、見当違いの点検・修理をする事を防ぎ、効率的に進められます。この競技の難しさは60分という短い時間で故障箇所を見つけ対処することです。

最後に、今後の抱負やロータス同友メンバーへのアドバイス等をいただけますか。

(澤口) 優勝という大きな成果を得る事ができましたが、全国大会やその準備の中でコーチや他の選手達を見る事で、もっと上のレベルが見えてきたように思います。向上心をなくさないように、更に整備技術を高めていきたいと思っています。

(小林) 大会を通じて得た経験など、澤口からのフィードバックに期待しています。個人だけでは無く、社員全員のレベルアップに繋がると思っています。これは我々だけでは無く、お客様にもとてもメリットのあること。またこの経験は自社だけではなく、茨城県の今後にも繋がっていくと思います。またロータスのメンバーからもどんどん選手が選ばれるといいですね。

(澤口) これからもプレッシャーに負けないよう頑張ります!

長時間のインタビューありがとうございました。本当におめでとうございます。



今回伺った(株)共栄自動車商会